

ハワイ研修特集!



長崎大学病院【佐世保総合病院】
山田 寛子

長崎大学病院 小柳 幸

佐世保総合病院 森 くるみ
(※)

長崎大学病院 吉村 聡志

長崎大学病院 中西 裕美

長崎大学病院【佐世保総合病院】
大塚 雅和

長崎大学病院【佐世保総合病院】
平瀬 絵美子

長崎大学病院 辻 創介

長崎医療センター 森内 由季
(※)

長崎大学病院【佐世保総合病院】
岡村 卓真

長崎大学病院【健保諒早病院】
中尾 信裕

長崎大学病院【佐世保総合病院】
福元 尚子



長崎大学病院 初期研修医のハワイ大学短期海外研修

この研修は、長崎大学病院群の研修プログラム研修医を対象に、初期研修カリキュラムの一環として、1) 高度シミュレーション教育で技術習得 2) ハワイ大学の関連病院の見学及び現地レジデントとの交流 3) 英語コミュニケーション能力の向上 4) ハワイの文化、生活を体験 することを目的として、毎年10名の初期研修医が参加しています。
(長崎県新・鳴滝塾からも2名参加)

注：長崎大学病院群の研修医
【】内は研修先病院名
(※新・鳴滝塾からの参加者)



長崎大学病院
宮本 俊之 (引率)

Day 1

(2013.9.09)

研修初日、Berg先生や日本、タイ、ベトナムから留学されている先生方に迎えられ、またピッツバーグから、瀧先生も参加いただき、大変賑やかなオープニングとなりました。いきなり英語での自己紹介を言われるも、動じる事無く全員が堂々と自己紹介していました。最初は厳しいかなと思っていましたが、隊長の杞憂でした。



全員のアンケートでなぜハワイに来たかと尋ねられ、ハワイに行きたかったが最も多い返事で正直で良いと思いました。その後、短い講義があり、シミュレーターの説明がありました。そして挿管のトレーニングを様々な挿管器具を用いて行いました。あっという間にランチタイムになるも、皆熱心に挿管練習を行い30分ほど時間超過しましたが、納得の行くまでやってもらいました。

午後はCV lineの実習です。鼠蹊部、鎖骨下、内頸と3つの箇所でエコーを用いたりして行いました。ここでも全員が非常に手技がスムーズだとお褒めの言葉をいただくと同時に、日頃やれない事を試していました。



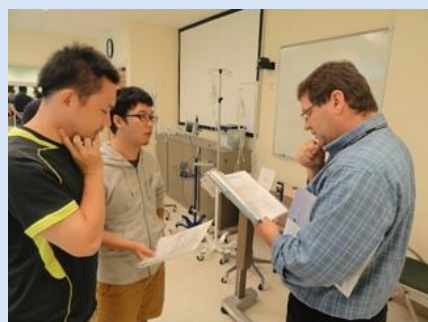
朝からは medical vocabulary の講義でしたが、アメリカの医療ドラマの台詞を聞き取るのに苦労しながらも全員ががんばっていました。その後のクイズでも会場爆笑のなか最後は大逆転劇がありました。その後 Crisis team training があり、まず Berg先生から手短かにレクチャーを受け、早速実践です。

最初のチームは予定通り上手く行かず、撮影されていたビデオを見ながらのデブリーフィングがありました。見学チームは気楽なものですが、次はそのチームが担当です。午前中は不完全燃焼の状況で終了し、ランチでエネルギー補充した後に午後のセッションに突入です。

午前中とは見違えるほどのチームワークを見せ、テキパキと行動する姿に感動すら覚えました。最後は恒例のデブリーフィング中に急変患者が出現し、12名全員で対応しましたが、3分以内に除細動を行い、適切な治療を多少の混乱がありながらも見事にやり遂げました。ハワイ大学の先生方や見学にこられていた日本人の先生からも賞賛の嵐でした。

Day 2

(2013.9.10)



Day
3

(2013.9.11) 3日目、one night on call の実習から始まりました。



日頃の当直業務で経験するような症例をシミュレーターで対応しました。それぞれのグループでなんとか対応できましたが、それ以上に全員がコミュニケーションに意識しながら対応している事が印象的でした。

午後からは不安定患者の対応を Turban 先生の指導の元行いました。これまでの経験を生かし、各チーム見事に対応していました。不整脈などに対する治療方針が多少異なりましたが、それに動ずる事無く対応できていました。



Day
4

(2013.9.12)

午前中は小児救急を主とした病院へ行き、救急外来の様子を見学。救急の「ABC」で使用する器具等が分けて配置されるなど、合理的なアメリカらしい作りに驚いているようでした。



午後からは SIM TIKI センターに戻り、小児診療のシミュレーションと講義を行いました。小児の挿管や骨髄路確保などシミュレーターを利用した実習では、チームワークがさらに良くなっているように感じました。

講義では小児と大人の違いや共通点などに、改めて驚いている研修医もいました。また、ベン先生から「患者の安全」というテーマでレクチャーを受け、コミュニケーションがスムーズに治療できるだけでなく、患者の安全につながるということ学びました。

Day
5

(2013.9.13)

最終日、朝から陸軍病院へ見学に行きました。

モーニングレクチャーとカンファレンスに参加、生の英語でのカンファレンスについていける研修医、ついていけない研修医がいたようですが、プレゼンの上手さ、議論の熱さは伝わったようです。その後 SIM TIKI センターに戻り、瀧先生の「アメリカの医療と研修」の講義がありました。いろいろな話をいただいたのですが、日本とアメリカの医療事情の違いに驚いたり、夢を持つことの大切さを実感したり、とても有意義なハワイ研修を終了しました。



今まで経験した事がないようなシミュレーションを体験することが出来たり、指導上手な先生達に乗せられたりしてとても楽しく研修に参加することが出来た。ハワイの開放的なムードもまた、積極的に研修に参加することが出来た大きな要因だと思う。

今回の経験を活かして、少しでも Dr. Taki や Dr. Lee に近づけるように日々少しずつ努力していきたいと思った。そしてあわよくば、十年後ぐらいに研修医から憧れられる存在になれたらなんて… 本当にハワイ研修に来てよかったと思いました。想像以上でした。

あっという間の5日間でしたが、とても刺激的でエキサイティングな日々でした。このような機会を設けて下さり本当にありがとうございました。引率して下さった宮本先生、ハワイ大学の先生、準備・手配等をして下さった事務の方々、そして共に学び楽しい研修にしてくれた研修医に心より感謝をします。

福島から研修医が来ました!

長崎大学と福島県立医科大学とは、平成23年に連携協定を締結しており、その一環として、両大学の研修医が相互の大学病院で、臨床研修の一部を行うことができるようにしており、それぞれ相手大学病院の強みを生かした研修を行うことが可能となっています。交流研修第一号として、9月から1か月間、長崎大学病院で研修を行った矢野徹宏先生（福島県立医科大学附属病院 研修医2年次）研修レポートをご紹介します!

【1ヶ月の研修で得たこと】

異なる環境で今までやってきたことが通用するというのは、非常に嬉しいことですが、何が根幹で何が枝葉末節なのかを区別する上でも重要だと思います。具体的には、卑近な例であれば、グラム染色や抗菌薬選択の考え方、問診の考え方、身体所見の取り方、胸部X線の読影、鑑別診断の考え方など、地味なスキル（だと思っていたもの）が、実は医師の根本を支えているような気がして、「自分の研修が間違っていなかった」という自信につながったように思います（もっとも、反省すべき点もたくさん発見しましたが…）。

どんなに優れた研修環境であっても、一つの特殊な環境であるという命題から逃れられないのは当たり前ですが、それがそのときの自分に合っているかどうかの保証はありません。ぴったりマッチしていればそれが最高の研修かもしれませんが、それは結構な博打だったりします（だからこそ病院見学やマッチングが大切な訳ですね）。僕はこれまで、自分がよかれと思って選んだ病院や科がそのときの自分に合わなかったり受け入れ先の態勢が整っていなかったりしてつらい経験もしましたが、今回の長崎大学熱研内科での研修はまさに啖啄の機とも言うべきタイミングで回らせていただきましたし、事務の方・指導医の先生方を含めた受け入れ態勢も万全で、最高の経験をさせていただいたと思います。長崎で出会ったみなさん、本当にありがとうございました。



福島県立医科大学附属病院
研修医2年次 矢野徹宏先生

11月と12月には長崎大学病院の研修医が福島県立医科大学附属病院及び南相馬市総合病院で研修を行います。